

# 閻魔堂の歴史

・ 仏教伝来 (五三八)

・ 聖武天皇(七〇一〜七五六)の勅願により建立されたのだという。像は行基作(宝永七年一七

一〇一)越後国柏崎町焰魔堂書縁起より)

一 此の堂は、上りむらびつ、聖武皇帝の御願焰魔王座像(長三尺餘 秦廣王等の九体各 せんくわうじゆ

・ 禮盤座(長三尺餘 以上行基の作 まじり

・ 宇都宮市光琳寺日本三体の一つに数えられる閻魔大王像一行基作と伝えられる

・ 小野 篁(八〇二〜八五三)「遣隋使を務めた小野妹子の子孫」の逸話

篁は夜毎、井戸を通つて地獄に降り、閻魔大王のもとで裁判の補佐をしたという。

『今昔物語』病死して閻魔庁に引据えられた藤原良相が篁の執成によつて蘇生した。

・ 慶長五年(一六〇〇)上杉遣民一揆の兵火で焼失。(比角村史誌 始めて歴史上に載る)

・ 慶長三年(一五九八)秀吉が死去すると上杉景勝と直江兼統は徳川家康に反旗を翻した。

・ 慶長十三年(一六〇八)再建(比角村史誌—今井某)

絵「柏崎四十八題」(一七一五)にあり

・ 寛保二年(一七四二)本堂改築

宝暦九年四月二十四日(一七六〇)味噌屋火事で類焼—納屋町記録帳より

・ 天明三年(一七八三)延命地藏菩薩建立(宮川安右衛門外八〇名の寄進)

・ 白川風土記(一八〇七)仏場 閻魔堂境内東西四十間 南北二十間 堂守 今井助之進

町中ニアリテ天平年間 聖武帝勅願アリテ勧善懲惡ノ結縁ノ為ニ經營シ玉フ所ト伝ウ・

絵「東隣商人鑑」にあり(一八五五)

・ 明治七年(一八七四)失火焼失

・ 明治二十年(一八八七)大久保屋火事で仮堂類焼

・ 明治二十九年(一八九六)再建土蔵造 四代目篠田宗吉

明治三十年(一八九七)日野屋大火にあうが類焼せず、延命地藏さんは焼けて真赤になつたとい

ふ。泥で目張りしたが、酒を入れてあつたためそれが火を呼び堂内より出火したという。柏盛座の内山友



「柏崎四十八題」(1715)より



「東隣商人鑑」(1855)より

太郎さんとその父、中川さんの三名で。消火したという

・昭和十八年（一九四三）延命地藏菩薩は、戦争で砲弾を造る金属にすりため盤子（鉢Ⅱかね）  
とともに供出させられる。

・昭和六十一年延命地藏菩薩再建（鋳物師 原 惣右衛門）

・西国三十三観音（左側の観音像群）

病で亡くなった大和長谷寺の徳道上人が間廣大王に会い三十三ヶ所の観音霊場をひろめて悩める人々を救うように三十三の「宝印」を与えられ再び梁婆へかえされたそこで上人は近畿地方の寺々の中に三十三ヶ所の霊場を設けた。これが西国三十三観音巡礼のはじまりである

## えんま市について

・宝永七年一七一〇―越後国柏崎町焰魔堂書縁起より

念仏の式会おきあいまにたえず毎年五月十五十六日諸人群集せり郷俗是を焰魔祭りという。

・間魔堂祭礼は旧暦の五月十四〜十七日まで毎年行われていた。

・市が立ち、見世物興行も行われていた。

・昔馬市は、納屋町現在の西本町で行われていた。寛文の頃（一六七〇年代）は、下町現在の東本町一丁目に移り、寛政の頃（一七九〇年代）〔明和（一七六四年）の頃の説もある〕には間魔堂境内に移った。馬市はすたれ、天保元年（一八三〇年）頃には、馬市は祭礼に吸収され、えんま市となった。

・えんま市が栄えたわけ

・昔は六月の中旬は、田植が終わり、農作業が一段落する時期であった。

・近郷近在の人々は団子やちまきを持って市に出かけた。市では日用品や雑貨、農具などが売買された。

閻魔堂仏像配置図

死後、死出の山八百里をさまよう

秦広王

初七日

殺生を審査

三途の川を渡る

奪衣婆

二七日 十四日目

初江王

盗み

四七日 二十八日目

御寶頭盧様

十六羅漢の一人  
なでぼとけ

宋帝王

邪淫

五官王

妄語(うそ)

閻魔大王

司録

五七日 三十五日目

司命

浄波璃鏡

鏡に生前の罪を再現し、善悪を見極め6道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上)のいずれかを決定する。

六七日 四十二日目

七七日 四十九日目

竹田満氏奉納  
「えんまねこ」

変成王

百ヶ日

泰山王

遺族の追善供養を見極める

都市王

地藏菩薩

賽の河原

平等王

一周忌

地藏様

向拝の鬼

都市王

西国三十三観音

三回忌

遺族の追善供養を見極め、救う

五道転輪王

西国三十三観音参照  
詳しくは閻魔堂

奪衣婆

一番  
←

大和長谷寺の徳道上人が瀕死になり、閻魔大王の前に行った。お前はまだ早い、苦しむ衆生を救えと33の宝印を与えた

地藏様

向拝の鬼

境内の石碑と仏

かつて二十三夜講があったと思われる

二十三夜塔



施主は東本町三丁目貞貝さんの先祖

天下和順  
観世音菩薩 碑

慶應二丙寅年  
圓覺智曉了傳



昭和十五年七月吉日  
初代 黒川 直吉  
行年七十六才

皇紀二千六百年記念建立一基矣  
以此功德  
支那事変戦死病没者英霊供養塔

馬頭観音像

刘羽郡惠田村  
石彫刻師  
小林群風



馬の守護神

側面  
日清役忠死者  
氏名  
日露役忠死者  
氏名

無習・煩惱を排除  
諸悪を毀壞

天明3年(1783年)9月建立

大座 歌代文左衛門藤原知之作  
施主 宮川安右衛門

\* 鼻の穴がないのが特徴  
頭に出来るおできや皮膚病  
が治ると言われている



甕(がめ)地藏像

延命地藏像

昭和61年五月再建

大久保 原 惣右衛門作

先代の延命地藏さんは、昭和18年の太平洋戦争末期に金物回収供出で供出された。

この延命地藏菩薩は、数多の信者の方々のお祈り、絶大な御支援により昭和六十一年五月再建されたものであります。  
前延命地藏菩薩は、二〇〇年前天明三年、宮川安右衛門殿他八十名の信者の方が先祖の菩提を弔うため寄進されたものでありますが、第二次世界大戦の際金属回収供出になったのであります。しかし今ここに新延命地藏菩薩の御来座を仰ぎ歡喜の日を迎えました。  
私たちは各々尊い命を大切にし戦争のない平和な世代を生抜いて行く知恵と努力を忍耐を御加護あらんことをひとえに念願するものであります。

昭和六十一年五月吉日

えんま堂(弥生筆)



功德 延寿息災

台座  
大正14年12月 本町7丁目  
有志 寄附  
庭師 蓮池岡作 号 雅石作之